

□店頭寫生

岡山 碧 花 生

水彩畫をやつて見やうと志したのは、一昨年
の春で其動機とも謂つ可き物はこうである。
私が小學時代の事で、常に朋友七八人往來し
ては畫を描いて遊んで居つた、小供同士の事
であるから、種々な繪本を取り集めて、半紙
や薄葉の切へ透き寫しをやり、赤、青、黄、
紫などの極端な安繪具を藥種屋から買つて來
てベタ／＼と塗り付けて居つた、そして出來
上つた畫は、其れを商品と見做し石や燐寸を
通貨と見做して互に商買事をして遊び、又は
友達同志での多少を誇り合つて遊んで居た。
此のやうに繪具を玩具同様にして居つたのも
不知不識自分をして繪畫大きく云へば美術に
憧れしむるやうに感化して呉れたのである。
かくて高等小學校へ入ると學課として圖畫を
課せられる、自分にはそれが非常に面白く、
従つて成績も好く常に甲點を得て居つた。其
後自家の都合上、商業學校へ入る事と成つた。
學校が學校であるから圖畫課は只一年級にあ
るのみで、それとて一週に一度一時間しか無
い、然も用器畫ときた、實に其時は失望した
何面白くもないと思ふて居たつがそれも只一

學期間のみで初歩を濟し、第二學期となつて
は鉛筆畫となつた、これで少しは面白味も増
して來た、第三學期となつては水彩畫と云ふ
工合であつた、此時は實に嬉しかつた、繪具
を使ふのが珍らしいやら面白いやら、此位愉
快な事は無かつた。漸う水彩畫法を習つたか
と思ふ間もなく、時日に關守なく、自分は第
二年級に進んだ、さあ、二年からは畫科は無
いのである、實に失望した、自宅で畫筆をと
らふにも、簿記や經濟、英語や代數に苦しめ
られて、ついで畫筆を手にする閑の無き無念
さ、繪具、畫筆、箱底に押込めたまゝ、卒業
の機は迫つた、丁度其頃世間では繪葉書が流
行しそめた、自分は家事の都合で卒業後職に
も就かず、徒らに兵役の來るのを待つて居る
身分である従つて用事もなく、至つて閑散で
ある、折から昔年の畫趣味を呼び起し又候繪
具筆は箱底から机上に現はれる事となつた。
それが丁度一昨年の春で、『水彩畫彙』も其時
求めた、讀んで見ると、「修業には寫生が一番
利益が多く且吾々の眼前には常に材料豊富、
井戸端でも乃至本でも机でも、有りとするも
の皆寫生の好材料である」と書いてあるし、且

自分も閑暇の多い身分、たまに店番をする位
な事であるから、先づ手近な店頭寫生をやつ
た。帳簿、酒樽、煙草入、など主なる材料で
あつた。

之を要するに余が水彩畫に志した最初の動機
は少年時代繪畫趣味の感化が徵兵を待つ身の
閑散な時分而も繪葉書流行の機を得て萌芽し
たに過ぎぬのである。

□寒き朝

紫 雲

私が先日の日曜に我家の近傍の森と云ふ所へ
寫生に行きました此日は寒くて外へ出るのさ
へ嫌でしたが勇氣を振つて家を出ました、や
がて目的の地へ着きました、見ると四方皆田
でその中に二三の森がありましたから、とあ
る社の森を寫さんと傍の小流から水を汲み來
り輪廓を終へ、やがて彩色し初めましたが一
筆目は何の變りもありまん二筆目をとと思つて
繪具を着けると、溶いて居いた繪具ははや凍
つて居るのです、いくら溶いてもそばからす
ぐと凍つてしまふのです仕方ありませんか
らそこ／＼に繪具やスケッチブックなど藏め
て家に歸つてしまひました、